

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
30-10	中学校	美術	美術	第 2・3 学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	美術 801	美術 2・3 探求と継承		

1 編修の基本方針

令和 3 年度用美術科教科書の編修については、教育基本法「第一章 教育の目的及び理念」を全体の枠組みにするとともに、同「第二章 教育の実施に関する基本」の「義務教育 第五条 2」が示す「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基礎的な資質を養うことを目的として行われるものとする。」及び学校教育法「第二章 義務教育」の「第二十一条」に掲げる目標のうち、「九 生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと。」を編修の基本方針として次のような項目を設定しました。

(1) 生徒の興味・関心を高める魅力ある題材の開発

義務教育段階の普通教育として、各個人の能力を伸ばすことができるよう生徒の興味・関心を高め意欲的に学習に取り組める題材の開発に取り組みました。また、中学校美術科の学習と高等学校芸術科美術及び工芸の学習との関連に配慮するとともに、中学校美術科の学習の目的や意義を確認する中で、主体的に学習に取り組めるようにしました。



86・87 ページ「木でつくる遊びの形」

(2) 生活や社会の中の優れた美術や美術文化の多彩な掲載

我が国の伝統と文化及び他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目的として、生活を明るく豊かにする日本及び諸外国の美術や美術文化を多種多様に取り上げ、より身近な視点から美術や美術文化について学ぶことができるようにしました。



94・95 ページ
「ゲルニカで伝えたかったこと」



104・105 ページ
「私たちの社会と美術」

(3) 美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力の育成

国家及び社会の形成者として必要とされる基礎的な資質である美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を、美術科における「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の観点から整理し、実感的に学習できるように配慮しました。また、鑑賞の学習を重視し、折込みページの活用や大型図版の掲載によって、鑑賞学習の充実を図り、鑑賞学習への興味・関心を高めるように工夫しました。



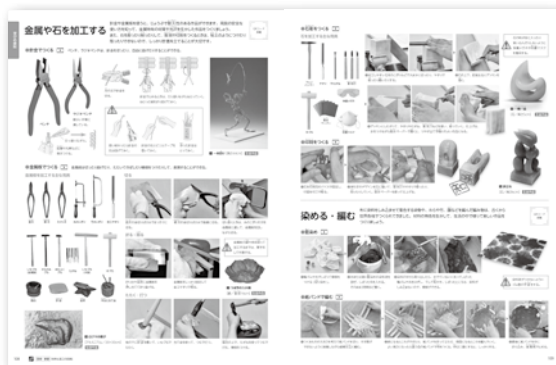
18・19 ページ「ゴッホと自画像」



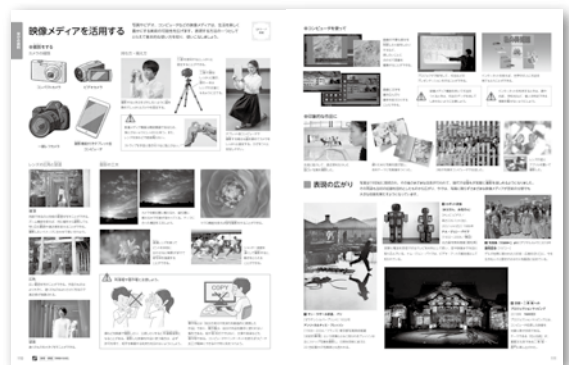
41~44 ページ
「金の表現、墨の表現」

(4) わかりやすい解説や資料の掲載と、生徒の主体的な学習活動の提示

わかりやすい解説や基礎的な学習の方法、多彩な資料などを手厚く配置し、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操が培えることを期すとともに、主体的・対話的で深い学びが保障できるよう配慮しました。



108・109 ページ
「金属や石を加工する」



110・1111 ページ
「映像メディアを活用する」

(5) 今日の課題及びバリアフリーへの対応



教育の機会均等を念頭に、特別支援教育及びインクルーシブ教育やカラーユニバーサルデザインなどにも対応するとともに、カリキュラム・マネジメントを視野に入れ、ウェブサイトによる多様な映像情報等の提示などを工夫しました。

- ・特別支援教育—専門家による監修のもと、文章の折り返しを読みやすくするとともに、全ページに誰にでも読み取りやすいユニバーサルデザインフォントを使用しました。
- ・カラーユニバーサルデザイン—専門家の監修のもと、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒に見やすいよう配慮しました。
- ・WEBとの連携—QRコードやURLによって、WEBサービスで学習の参考となる動画などが見られるようにしました。
- ・ICTの活用—デザイン分野の題材などにおいてコンピュータ等のICTを活用する題材を設定しました。

② 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 第2学年及び第3学年を一冊にまとめた効率のよい学習の展開

学習指導要領の趣旨を生かし、第2学年及び第3学年の一体化した学習をより強化し、表現と鑑賞の学習の深まりを促すとともに、豊富で多様な資料が提示できるようにしました。

② 各分野の学習活動の明確な表示

それぞれの学習活動の題材ページの入り口に「絵や彫刻で学ぶこと」、「デザインや工芸で学ぶこと」、「鑑賞で学ぶこと」と題する扉を置き、各分野の学習活動の意味や目的を考慮することができるようにするとともに、目次には、題材名とページ番号に加えて活動内容を色分けして示し、各題材ページのタイトルにも学習活動が明確にわかるようにサインで示しました。



8・9ページ
「絵や彫刻で学ぶこと」



36・37ページ
「鑑賞で学ぶこと」



62・63ページ
「デザインや工芸で学ぶこと」

③ 自己と社会、美術と社会のかかわりを考えるページの設定

中学校3年間の美術科の学習のまとめとして、これまでに育てた資質・能力をどのように生かすべきかを考え、学習のまとめとする「美術の力を生かして社会とかがわる」と題する鑑賞を中心とするページを提示しました。



92・93ページ「美術の力を生かして社会とかがわる」



97・101ページ「美術で世界と向き合う」

④ 日本及び諸外国の伝統や文化に関する鑑賞学習の充実



48・49 ページ「浮世絵、庶民の楽しみ」

日本及び諸外国の伝統や文化のよさや美しさを感じ取り、愛情を深め、美術文化を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えられるようなページを充実させ、「日本らしさ」をテーマとした鑑賞題材も設定しました。

⑤ 地域の文化財や美術館及び人材の積極的活用

学校外の文化財や組織、人材の活用は、美術科においてはその社会性からも重要事項であり、それらを促す題材を設定しました。



88・89 ページ「地域の伝統工芸」

⑥ 他の題材や他の教科と関連する学び



13 ページ
参考になったり関連付けたりして学習できるページを示しています。



10 ページ
題材と関連付けて学習できる他教科を示しています。

脚注に他の題材や他の教科と関連する学びを示すマークを入れ、学習の広がりや深まりを可能にしました。また、安全に注意すべき個所なども示しました。

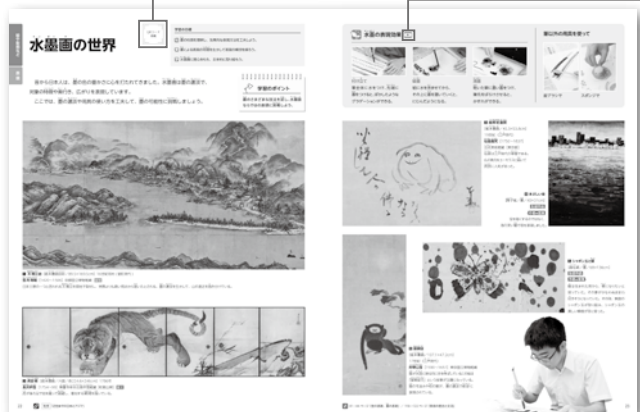


110 ページ
安全に関する注意点を示しています。

⑦ QRコードなどを用いたわかりやすく多彩な解説や資料の掲載及び提示

全ページに渡ってわかりやすい解説の充実を図り、関連する資料などを適宜配置しました。また、必要に応じてQRコードを提示し、ウェブサービスによって学習の参考となる動画や映像資料などを提供し、学習の広がりをもとに、生徒が自ら主体的に学習できるよう配慮しました。

QRコードによって、他の生徒作品や技法についての動画を見ることができます。



22・23 ページ「水墨画の世界」

ウェブサービスを使ってみる事ができる動画があることを示しています。

③ 対照表（教育基本法との対照表） 2・3年

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 ページ番号
全題材	本教科書の全題材、全ページにわたり、美術を通して、教育基本法第二条（教育の目標）第一号に謳われている「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」が達成できると考えています。（第一号）	全ページ
絵や彫刻で学ぶこと	自分らしさや個性が発揮できるような題材設定を行いました。また、自己肯定感を高め、第二号に謳われている「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」が達成できる題材を多く取り上げています。（第二号）	8・9
自分と向き合う		10-13
ゴッホと自画像		18・19
想像の世界を表す		20・21
形と色彩が織りなすイメージ		24・25
版表現の可能性		26・27
この場所、この場面		28・29
形を研ぎ澄ませて		30・31
ポスターで伝える		66・67
錯視の効果を生かして		68・69
本の形で表現しよう		74・75
奥行き表現		106
版画の種類		107
金属や石を加工する		108・109
映像メディアを活用する		110・111
漫画の試み	112	
未来に向かって	123	
暮らしに生きる美術	制作において友人と協力して活動したり、話し合ったりして制作・表現していくことは、互いの考えを主張したり、調整したりすることが必要になります。「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に直結する題材の設定をしています。（第三号）	6・7
誰にでもわかりやすく伝える		70・71
パッケージで魅力を伝える		72・73
安心と安全のデザイン		76・77
空間を快適に生き生きと		78・79
美術の力を生かして社会とかかわる		92・93
私たちの社会と美術		104・105
アニメーションの技法		113
共に学ぶ美術		114・115
風景が語るもの		自然の草花や風景を描いたり、動物や身近な生き物をつくったりする題材を多く設定しています。また、デザインや工芸の分野では、環境に寄与する態度を養えるような題材も設定しています。第四号で謳われている「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」を達成できると考えています。（第四号）
場との響き合い	32・33	
生命感あふれる表現	34・35	
デザインや工芸で学ぶこと	63・63	
ピクトグラムとサイン計画	64・65	
明かりの形	80・81	
木でつくる遊びの形	86・87	
美術で世界と向き合う	96・101	
リノベーション、使い続ける工夫	102・103	
探求と継承	日本及び外国の多くの美術作品を紹介しつつ、日本の伝統文化については大きく取り上げる題材を設定しています。第五号で謳われている「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」にふさわしい題材や作品を取り上げています。（第五号）	
水墨画の世界		22・23
鑑賞で学ぶこと		36・37
物語を伝える絵巻物の世界		38-40
金の表現、墨の表現		41-44
琳派のデザイン性		45-47
浮世絵、庶民の楽しみ		48・49
美術がつなぐ世界と日本		50・51
造形表現のパワー		52・53
祈りの造形、仏像の美		54・55
ルネサンス、人間の発見		56・57
主題を決めるロマン主義		58・59
光をとらえる印象派		60・61
型から生まれる形		82・83
織る、編む、組む		84・85
生活に生きる伝統工芸		88・89
伝統と創造		90・91
ゲルニカで伝えなかったこと		94・95
染める・編む		109
日本の伝統色と配色文化		116・117
美術の歴史と交流	118-122	

編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-10	中学校	美術	美術	第 2・3 学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	美術 801	美術 2・3 探求と継承		

1 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領が示す美術科の目標を踏まえ、中学校段階での造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成できるよう、第 1 学年での学習を基に、高等学校芸術科美術、工芸等への学習の発展を考え、系統的学習を重視した題材による構成を目指して編修した教科書です。具体的には以下のポイントに意を用いて編修しました。

POINT① 主体的・対話的で深い学びへと導く教科書

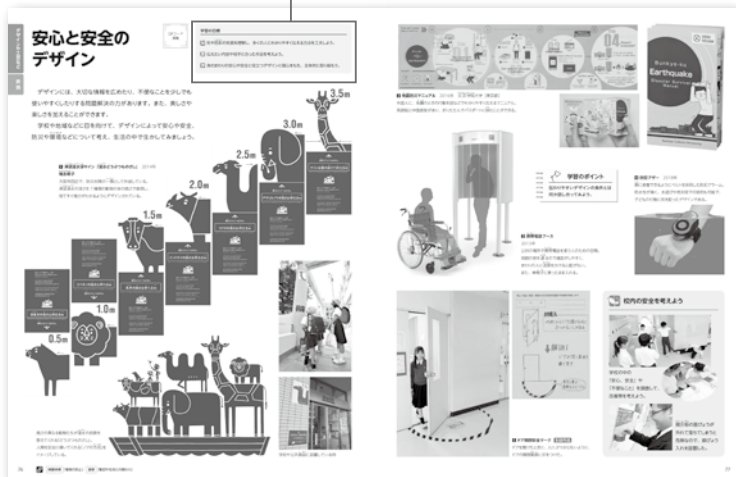
教科書をきっかけとして、生徒が主体的に先生や生徒などと検討し合ったり議論しあったりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるような文章や紙面構成を大切にしました。



12・13 ページ「風景が語るもの」

学習の目標
 学習指導要領における生徒に育成したい資質や能力を授業（学習）の中心的な三つの目標として、生徒にわかりやすく整理するとともに、生徒を深い学びへ導きます。

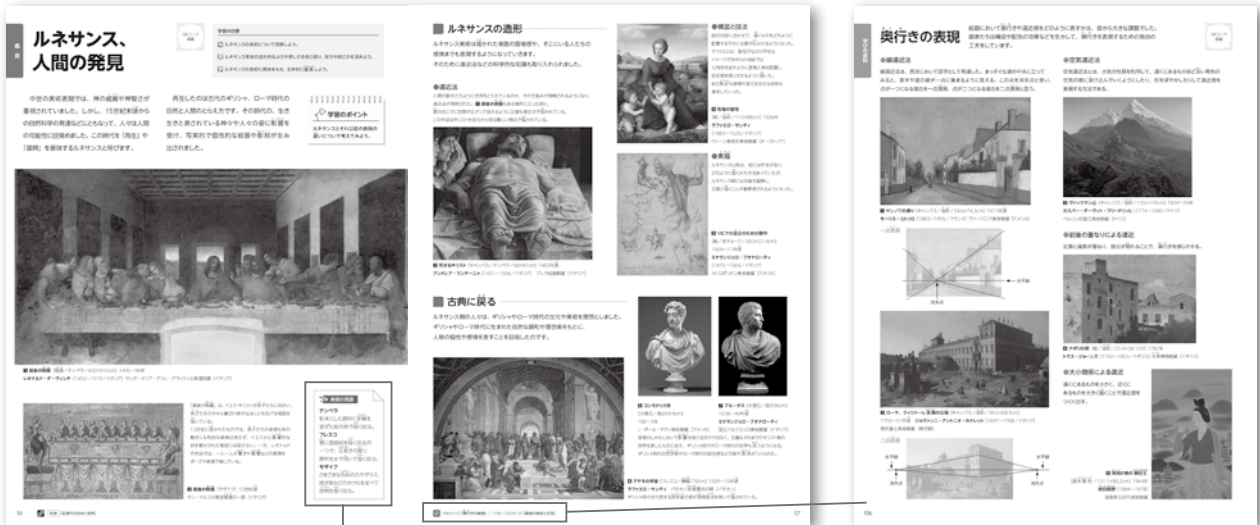
学習のポイント
 学習のポイントは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を中心にして、その題材でポイントとなることを示しています。
 生徒が主体的に話し合ったり検討し合ったりすることで生徒を深い学びへ導きます。



76・77 ページ「安心と安全のデザイン」

POINT② 知識及び技能を習得できる教科書

各題材の「学習の目標」に「知識や技能に関する目標」を示すとともに、必要に応じて「美術の用語」を提示するようにしました。また、題材横断的な基礎的な知識や技能については、巻末に「学びの資料」としてわかりやすく系統的に示し、効率よく多様な題材の学習に対応できるように配慮しました。



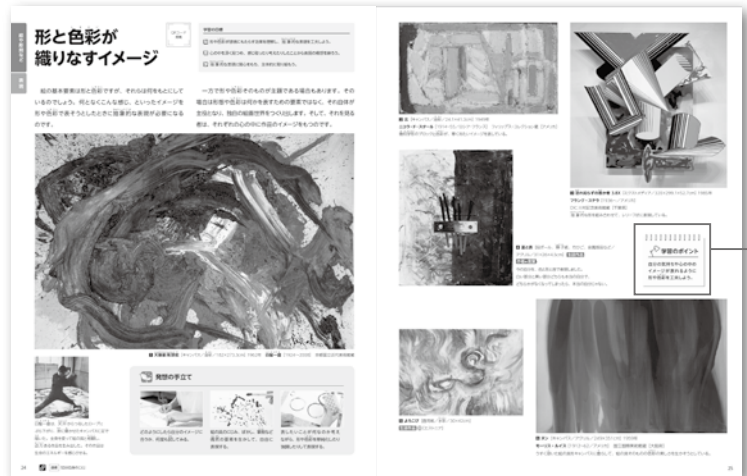
56・57 ページ
「ルネサンス、人間の発見」

106 ページ「興行きの表現」

「美術の用語」では、美術に関する用語などを解説しています。

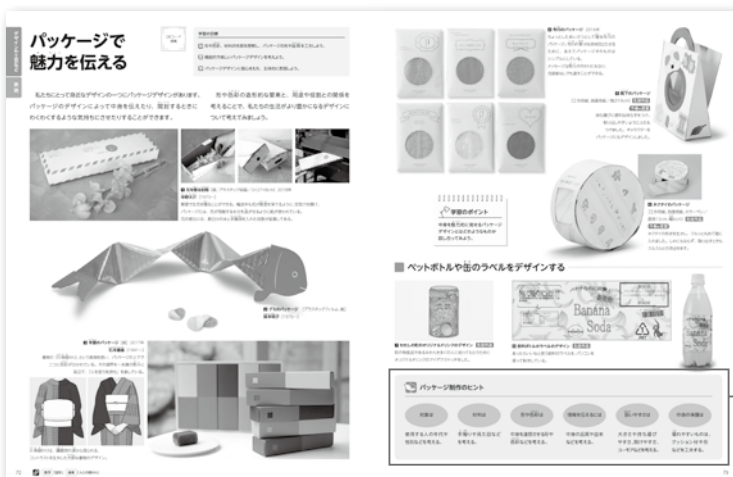
POINT③ 思考力、判断力、表現力等を育成する教科書

各題材の「学習の目標」に「発想や構想に関する目標」を示すとともに、学習を深めるための「学習のポイント」、発想や構想の方法、学習の進め方のヒントを必要に応じて示しています。



24・25 ページ「形と色彩が織りなすイメージ」

「学習のポイント」で適宜、発想や構想のポイントについても示しています。



72・73 ページ「パッケージで魅力を伝える」

発想や構想の方法、手立てなどを示しています。

POINT④ 学びに向かう力、人間性等を涵養し、豊かな情操を培う教科書

巻頭に「探求と継承」と題する美術の社会的意味や価値を考えるページを設定するとともに、「暮らしに生きる美術」と題する美術の学習の意味や目的を考えるページを提示し、学習への意欲を高めるようにしました。また、各題材の「学習の目標」には「造形への関心や意欲に関する目標」を示すとともに、必要に応じて「作者の言葉」を取り上げることによって、作品への興味関心を高め、作者の人となりを学ぶことができるようにしました。



20 ページ「想像の世界を表す」

作者の言葉
作品への興味関心を高め、作者の人となりを学べます。



2~4 ページ「探求と継承」



6・7 ページ「暮らしに生きる美術」

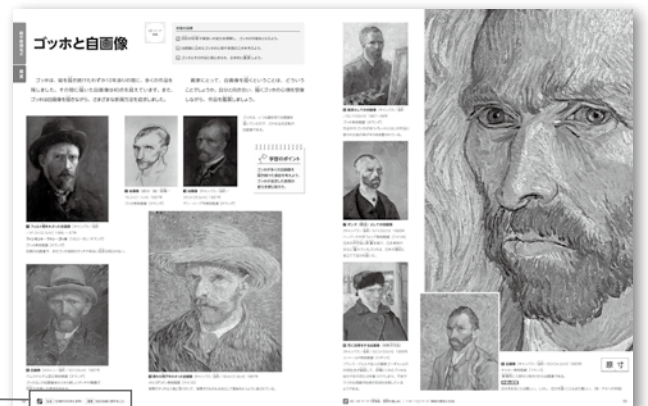
POINT⑤ 表現と鑑賞の学習の関連や系統性とカリキュラム・マネジメントを考えた題材の構成

表現の学習と鑑賞の学習の関連を重視し、学習の広がりや深まりについて配慮するとともに、第1学年の学習から、第2学年及び第3学年の学習へ展開する系統性を考慮することによってさらなる学習の深まりを図り、多様な実践に対応するカリキュラム・マネジメントを可能にしました。



14~17 ページ「自分と向き合う」

4ページ構成
4ページ構成の題材にすることで、表現と鑑賞の学習が相互に関連し、学習が深まります。



18・19 ページ「ゴッホと自画像」

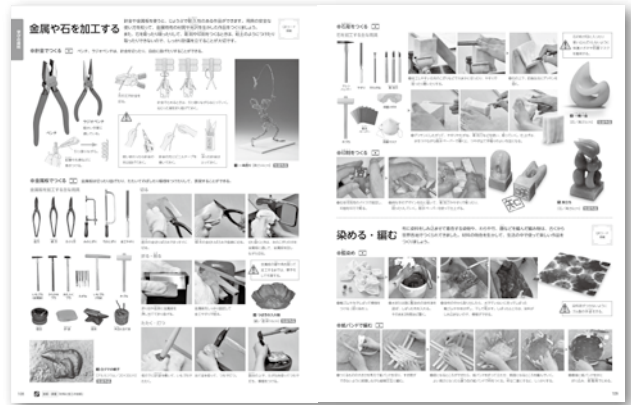
他教科との関連マーク
カリキュラム・マネジメントの推進に役立つように、関連して学ぶことができる他教科の内容を示しました。

POINT⑥ 資料ページの充実による主体的な学習と知識及び技能の習得の保障

「学びの資料」として整理した資料ページを大幅に拡充し、各題材における学習の導入やガイダンス、まとめの資料及び表現のための技法理解、鑑賞材料など多岐にわたる内容を取り上げました。



114・115 ページ「共に学ぶ美術」



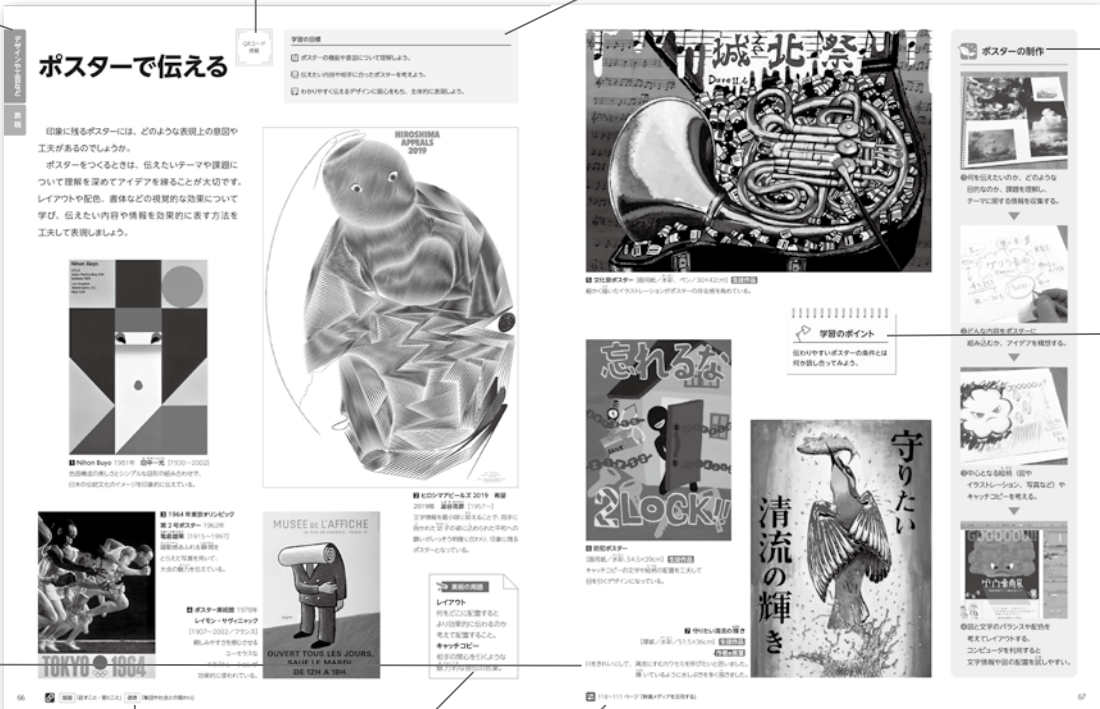
108・109 ページ「金属や石を加工する」

POINT⑦ わかりやすく、たのしく、確かな力を育てる大判（A4判）の教科書

ツメ見出しは、題材の内容（領域）を色と形で示しました。

QRコードを読み取ることで参考作例や動画を見ることができます。QRコードを読み取れないときは目次に示したURLから見ることができます。

学習の目標は、生徒に育成したい資質や能力を授業（学習）の中心的な三つの目標として、生徒にわかりやすく整理しました。



カリキュラム・マネジメントの推進に役立つように、他教科との関連を図り示すことができますよう示しました。

内容に関連する美術の用語を解説しています。

関連ページへのリンクを設け、活動に関連する資料ページを指示することで自主的に資料を有効活用できるようにしました。

66・67 ページ「ポスターで伝える」

学習のポイントは、「知識や技能」「思考力、判断力・表現力」「学びに向かう力」の三つの柱を中心にして、その題材でポイントとなることを示しています。生徒が主体的に話し合ったり検討し合ったりすることで生徒を深い学びへ導きます。

発想や構想のヒント、制作の手立てなどを示しています。

作者の言葉は、作品への興味・関心を高めたり、作者の人となりや学べたりするほか、発想や構想、技法の手がかりとなります。

② 対照表（学習指導要領との対照表） 2・3年

図書の構成・内容	学習指導要領の内容										内容の取扱い		該当箇所 (ページ番号)	
	A表現					B鑑賞				共通事項				
	「思考力、判断力、表現力等」			「技能」		「思考力、判断力、表現力等」				「知識」		(1)		(2)
	(1)			(2)		(1)				(1)				
	ア (ア)	イ (イ)	ウ (ウ)	ア (ア)	イ (イ)	ア (ア)	イ (イ)	ア (ア)	イ (イ)	ア (ア)	イ (イ)			
探求と継承							○	○	○	○	○	○	○	2-4
暮らしに生きる美術							○	○	○	○	○	○	○	6・7
絵や彫刻で学ぶこと	○			○	○	○	○			○	○	○	○	8・9
風景が語るもの	○			○	○	○	○			○	○	○	○	10-13
自分と向き合う	○			○	○	○	○			○	○	○	○	14-17
ゴッホと自画像							○	○		○	○	○	○	18・19
想像の世界を表す	○			○	○	○	○			○	○	○	○	20・21
水墨画の世界	○			○	○	○	○			○	○	○	○	22・23
形と色彩が織りなすイメージ	○			○	○	○	○			○	○	○	○	24・25
版表現の可能性	○			○	○	○	○			○	○	○	○	26・27
この場所、この場面	○			○	○	○	○			○	○	○	○	28・29
形を研ぎ澄ませて	○			○	○	○	○			○	○	○	○	30・31
場と形の響き合い	○			○	○	○	○			○	○	○	○	32・33
生命感あふれる表現							○	○		○	○	○	○	34・35
鑑賞で学ぶこと							○	○	○	○	○	○	○	36・37
物語を伝える絵巻物の世界							○	○	○	○	○	○	○	38-40
金の表現、墨の表現							○	○	○	○	○	○	○	41-44
琳派のデザイン性							○	○	○	○	○	○	○	45-47
浮世絵、庶民の楽しみ							○	○	○	○	○	○	○	48・49
美術がつなぐ世界と日本							○	○	○	○	○	○	○	50・51
造形表現のパワー							○	○	○	○	○	○	○	52・53
祈りの造形、仏像の美							○	○	○	○	○	○	○	54・55
ルネサンス、人間の発見							○	○	○	○	○	○	○	56・57
主題を決めるロマン主義							○	○	○	○	○	○	○	58・59
光をとらえる印象派							○	○	○	○	○	○	○	60・61
デザインや工芸で学ぶこと		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	62・63
ピクトグラムとサイン計画		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	64・65
ポスターで伝える		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	66・67
錯視の効果を生かして		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	66・69
誰にでもわかりやすく伝える		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	70・71
パッケージで魅力を伝える		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	72・73
本の形で表現しよう		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	74・75
安心と安全のデザイン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	76・77
空間を快適に生き生きと		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	78・79
明かりの形		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	80・81
型から生まれる形		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	82・83
織る、編む、組む		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	84・85
木でつくる遊びの形		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	86・87
生活に生きる伝統工芸							○	○	○	○	○	○	○	88・89
伝統と創造							○	○	○	○	○	○	○	90・91
美術の力を生かして社会とかかわる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	92・93
ゲルニカで伝えたかったこと							○	○	○		○	○	○	94・95
美術で世界と向き合う							○	○	○		○	○	○	96-101
リノベーション、使い続ける工夫							○	○	○	○	○	○	○	102・103
私たちの社会と美術							○	○	○		○	○	○	104・105
奥行き表現	○				○	○	○	○		○	○	○	○	106
版画の種類	○				○	○	○	○		○	○	○	○	107
金属や石を加工する	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	108・109
染める・編む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	109
映像メディアを活用する	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	110・111
漫画の試み	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	112
アニメーションの技法	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	113
共に学ぶ美術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	114・115
日本の伝統色と配色文化							○	○	○	○	○	○	○	116・117
美術の歴史と交流							○	○	○	○	○	○	○	118-122
未来に向かって	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	123